

◆AI（人工知能）を包含する Embedded Knowledge（埋め込み知）と言う視点（投稿）

本学会副理事長 山崎秀夫

第7回 書籍「ホモ・デウス」に見るデータ駆動型 KM（アルゴリズム型 KM）とアナログ型 KM

今 世界中で読まれている書籍に人類学者のユバル・ノア・ハラリが書いた「ホモ・デウス」があります。この本は前著の「サピエンス全史」の後を受けて書かれたものですが、ナレッジマネジメントの教科書として見ても素晴らしい読み物です。

中世の知識は知識＝聖書 X 論理 でした。同様に産業革命時代（科学革命時代）の知識は知識＝観察に基づくデータ X 数学でした。それが更に人権革命（個の重視、環境や経済社会のサステナビリティ重視、グローバル重視）の人間至上主義時代には 知識＝経験 X 感性が重視されるようになり、新しい産業革命時代における AI の登場で AI が大量に作り出す知識は知識＝データ X 数学へと変化します。山崎秀夫はこれからのアナログ KM を知識＝経験 X 感性が中心となると考えており、工場と切り離された設計がアイデア思考へとシフトするのが一例だと見ています。また当然、アルゴリズム的な見方が台頭している新しい産業革命時代のデジタル KM はデータ駆動型 KM(アルゴリズム型 KM) と呼ばれるようになり、知識＝センスされたデータ X 数学へと変化すると考えています。

更にハラリの「ホモ・デウス」では暗黙知の説明として行動経済学者、ダニエル・カーネマンの「システムワン（経験的自己）とシステムツー（物語的自己）」、マイケル・ガザニガの意識や自己の正体であり、物語を考え出す「インタープリターモジュール（解釈者の座）」が述べられています。更にエドモンド・フッサールの「共同主観や相互主観」の指摘（お金など、多くの事実とされるものは相互主観による制度的事実、制度的知識言う主張、これは明らかに埋め込み知の議論です。）、ミッシェル・フーコーを連想させる「人間至上主義の消滅予測」、更にデータ至上主義やアルゴリズム至上主義の帰結としての DIKW モデルによる「AI が大量の知識を作り出す時代」の到来予測、一方ホモサピエンスは、サイバネティクスや遺伝子工学がもたらすポストヒューマンとしての超人＝ホモデウス（ギリシャ神話の神）になるものと無用者階級に分解する」と述べています。超人と無用者階級への分解はリチャード・フロリダのクリエイティブクラス、サービスクラスの発展形と考えることもできましょう。そしてデータ駆動型社会とアルゴリズム型 KM が AI により大量の知識をもたらし、その結果、技術革新が加速化し、社会の変化が加速化します。それについていけるホモサピエンスはクリエイティブクラスを超える超人に変化せざるを得ないという訳です、またインターネット型の革命は今後繰り返されます。

デジタル KM は DIKW で回すとハラリさんは指摘していますが、果たしてアナログ KM にクリエイティブクラスを超える超人の為の知識創造の理論を作り上げることができるのでしょ

うか？

デジタル KM はデータ駆動型 KM (アルゴリズム型 KM) と考えられるわけですが、これは明らかにビジネスプロセスの中に AI などの情報処理が入り込んで大量の知識を作る為、アナログ KM の視点からは一種の埋め込み知とみることもできます。埋め込み知とは構造や文化に埋め込まれた知識であり、製品、サービス、(AI などが部分的に構成している) ビジネスプロセスなどを知識の塊とみる知識論です。

■ 次の論点になり始めているアナログ KM とデジタル KM

先日、12月10日の新産業革命部会の講師との打ち合わせでドイツのインダストリー4.0を牽引している SAP ジャパンの福田社長をおたずねしました。スポーツの世界でデータ駆動型スポーツ、アルゴリズム型のスポーツを AI で実現している福田社長は、早稲田大学でも講師をされており、AI によるデジタル KM を前提としたアナログ KM として「アイデア思考」を社会人学生と議論されています。

これまで KM 学会の議論では、人と AI の価値共創は取り扱ってきましたが、アナログ KM やデジタル KM という視点では議論がなされてきませんでした。またポストヒューマンの議論も狭い「シンギュラリティ論」だけでしかありませんでした。

今後はデータ駆動型 KM (アルゴリズム型 KM) が大量の知識を作り出す時代の新しいアナログ型 KM の在りが大きな課題になると思います。是非、12月10日の新産業革命部会にご参加願います。大いに議論しましょう。

◆第3回新産業革命 (AI, オープン、多様性等) 研究部会 講演・インタラクティブセッションのご案内 (本学会理事 新産業革命研究部会長 田原祐子)

第3回研究部会は「プロスポーツに学ぶ、データドリブン時代のナレッジマネジメント」をテーマに、講演ならびに参加者と講師とのインタラクティブセッションを、12月11日(火)18時00分から一橋大学(神保町・竹橋)にて行います。

開催日時: 12月11日(火)18:00~20:00頃 終了後、懇親会

講師: SAP ジャパン代表取締役社長 福田譲 氏

当研究部会顧問ならびに当学会副理事長 山崎秀夫 氏

インタラクティブならではのライブ感、講師に直接質問を投げかけられるチャンスは貴重かと存じます。この機会を逃さず、共に語り、学びませんか?

開催場所: 一橋大学(神保町、竹橋) 一橋講堂 201-203 教室

参加費: 研究会無料、懇親会 HASSO CAFE にて (3500円予定)

申込方法: <https://goo.gl/forms/mvCj07yU10EwGuXV2>

上記にアクセス頂き、フォーム内を記載してお送り下さい。

以上